

読み聞かせについて

1. 絵本の選び方

- ・ある程度の大きさがあること
- ・絵がよく見えること(遠目がきくこと)
- ・絵と文の割合、バランスがよいもの
- ・ストーリーが複雑でないもの
- ・季節や行事にちなんだもの

2. 読み聞かせ

- ・開き癖をつける
- ・持ち方・・・本のとじのところをしっかりとつ
- ・立ち位置・・・子どもの目線が少し上になるようにする
- ・めくり方・・・腕で絵がかくれないように気をつける
- ・読む速度、めくる速度・・・基本的にはゆっくりと落ち着いて
- ・読み方・・・基本的にはゆっくりと心をこめて
- ・声の大きさ・・・子どもたちによく通る声で

○事前の準備を大切に

読む絵本が決まったら・・・

まずは絵をよくみる(おはなし会するとき、子どもたちは絵をみています。)

何度も声にだして読んでみる(このときに所要時間も確かめます)

※声にだして読まないで、その本を読む速さ、間のとり方、発音などを確認できません。練習でも必ず声にだして読んでみてください。

○読み聞かせに大切なこと

- ・聞き手と絵本を一緒に楽しもうという雰囲気をつくる
- ・子どもたち(聞き手)と友だちになる
 - 聞き手の求めているものを知ることができる。
 - 読み聞かせに集中してもらえる。
- ・好きな絵本を読む
 - 読み手のその絵本に対する気持ちを聞き手は敏感に感じ取ります。
 - いい絵本といわれていても、共感できないときは選ばないほうがいいです。
- ・TPOを考える

読み聞かせについて

1. 絵本の選び方

- ・ある程度の大きさがあること
ある程度の人数で絵本を楽しむときは、すべての子供たちの目にとまるような大きさの絵本を選ぶようにします。
 - ・絵がよく見えること(遠目がきくこと)
絵本の読み聞かせで絵が見えないのは楽しさが全然伝わらないことになってしまいます。
遠目がきく絵、細部まで認識できる絵(単純な絵)のほうが、読み聞かせには向いています。
 - ・絵と文の割合
一ページに対しての絵と文の割合がよい絵本はこどもたちもお話についてきやすいです。このことから、一枚の絵に対して文が長かったり短かったりする絵本は読むのが難しいと考えられます。よほどのことがない限り(絵本を聞きなれている子など)でない場合、子どもたちが手持ち無沙汰になります。
また、お話の進み具合と、絵の場面数の割合も大切です。絵と文がちぐはぐでない絵本を選びます。
 - ・ストーリーが複雑でないもの
こどもたちがお話についてこれないと読み聞かせはつまらないものになってしまいます。
- 季節や行事にちなんだものは、子どもたちの実生活にかかわりができるので、子供たちはお話に入っていくやすい傾向があります。

2. 読み聞かせ

- ・開き癖をつける
読むときに絵をきちんと子どもたちに見てもらえるよう、ページをひらいたときに収まりがいいように開き癖をつけます。(開き癖の解説もする)
- ・持ち方
片手で本のとじのところをしっかりと持ち、安定させます。
- ・子どもたちの前にたつ
子どもの目線が少し上になるようにします。
(子どもが床に座っていたら椅子で、椅子に座っていたら立って読みます)
すべての子どもの位置から絵が見えているかどうか確認します。

・読み始め

表紙の題をいったときに子どもたちとの位置をもう一度確認します。

きちんと表紙、見返し、タイトルページと紹介していきます。

（表紙や見返し、タイトルページの絵などにも大切な情報が描かれている場合もあります→「どろんこハリー」、「はじめてのおつかい」等）

・めくり方

腕で絵がかくれないように気をつけます。

もちろん、めくり癖もつけておきます。

・読む速度、めくる速度

基本的にはゆっくりと落ち着いて

絵本を読み込むことで、その絵本にあった読む速度、めくる速度、そしてめくるタイミングなどもつかめます。

基本的にページをめくった瞬間は子どもたちに絵を見せ、読むのに一呼吸おきます。

（「ぐりとぐら」「てぶくろ」などは、ページをめくるタイミングを工夫する）

・読み方

基本的にはゆっくりと心をこめて

絵本を読み込むことで、その絵本の読む速さ、間のとりかたをつかみ、おはなしの流れに乗るようにします。

・声の大きさ

子どもたちによく通る声で

○事前の準備を大切に

読む絵本が決まったら・・・

まずは絵をよくみます。（おはなし会するとき、子どもたちは絵をみています。）

何度も声にだして読んでみます。（このときに所要時間も確かめます）

※声にだして読まないで、その絵本を読む速さ、間のとり方、発音などを確認できません。練習でも必ず声にだして読んでみてください。